



| | |
|--------------|---|
| Title | 新システムの稼働および新営建物への移転に際して |
| Author(s) | 高木, 修二 |
| Citation | 大阪大学大型計算機センターニュース. 1972, 7, p. 1-1 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/65157 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

新システムの稼動および新営建物への移転に際して

大阪大学大型計算機センター長 高 木 修 二

大阪大学吹田キャンパスに建設中であった新しいセンターの建物も3月末に完成し、センターも4月にそちらへ移転しました。また、新システムN700も建物全体の完成を待たずに2月末に新建物に搬入、据付調整を行ない、4月にメーカーより引渡しを受けました。4月中テスト運転を行ない5月より稼動しています。また、新しくもう一つのN500システムが新しい建物で4月から稼動し、同時に旧センター建物にあったシステムAの解体移設を始め、更に5月には同じくシステムBの解体移設を行なって新しい建物への移転をすべて完了しました。移転に際してはなるべくセンターの処理能力を落さないで行なうように努力したつもりですが、利用者の方々にいろいろな点でご不便とご迷惑をおかけしたことをおわび致します。

さて、新システムの設置と新建物の完成によってセンターもやっと他の大型計算機センター（東大、京大を別格として）並みの規模になりました。センター職員も気持ちを新たにして業務に取り組んでいます。これまで建物が狭いためにできなかった利用者のデバッグのための室なども広く取りましたので大いに利用してください。その他、これを機会に従来よりももっと体制を整備して利用者の便をはかりたいと考えています。また、新しい建物の地理的位置のために従来に比べて不便になる利用者もあると思いますが、輸送便の増発等によりできるだけ補って行くつもりです。

新システムもハード面では大体落着いて来ましたが、オペレーティング・システムや言語プロセッサにはまだまだ虫が発見されつつありますし、不備なところもあります。これらは逐次手直ししつつありますが一応のところにはもう少し時間が必要であろうと思います。また、システム構成にしてもある時点で再検討してもっとよいものにしたいと考えています。新システムをより効率よく働かせるためにも、またソフトウェアのいろいろな欠点を発見するにも、利用者の方々のご協力をお願い致します。

TSS関係は移設に伴って約1カ月半稼動を停止し、たいへんご迷惑をおかけしましたが、現在では従来と異なり午後もフルに使っていただけるようになりました。この夏にはドラムを入れてロールI/O時間を早めるなどの改造をいたしました。

新しいシステムを加え、全システムが予定通りの能力を発揮しても、現在の需要予測からすれば需要に追いつかないと推定されています。それに対してはまた別に対策を考えてはいますが、それはそれとして、今のシステムの能力を最大限まで引き出し、いろいろなサービスをも加えてセンターの機能をできる限り拡大強化する覚悟で居ります。センターに対する苦言、注文もどしどしお寄せ下さることを期待して居ります。